



www.umenokinen.com

梅野記念絵画館コレクション展

莊司貴和子

2023.2.4 SAT — 3.26 SUN

休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)

会場 東御市梅野記念絵画館 大展示室

開館時間 9時30分—17時(最終入場16時30分)

入館料 一般 300円(団体 250円)

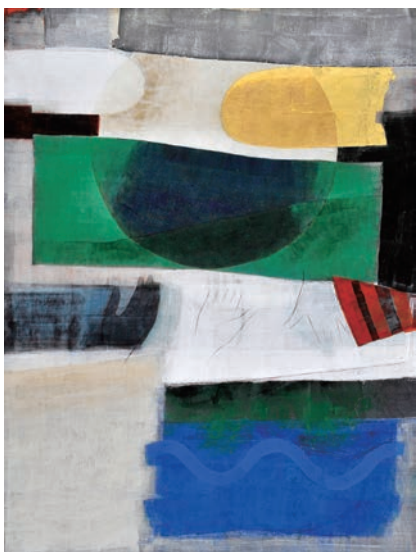
※中学生以下無料 ※団体割引は15名様以上から
※身障者割引、学校利用減免、減額制度あり



梅野記念絵画館コレクション展 莊司貴和子

東京藝術大学日本画科を卒業後、1960年代〜1970年代にかけて新制作協会、創画会で活躍した莊司貴和子は昭和54（1979）年に39歳の若さで夭折しました。莊司が活躍した時代は、藝大時代の恩師である吉岡堅二や岩橋英遠らが前衛的に活動した戦後日本画のアヴァンギャルドの時代を経過し、多くの展評では、「日本画は何処へ行く」「もう日本画も洋画もない時代だ」などと酷評され、日本画表現が混乱、停滞していた時代と言われています。莊司はこの混乱禍、西洋画の表現を取り入れながらも日本画が伝統的に継承してきた情趣性を保ち、新たな日本の表現を追求し続けました。特に創画会出品以降の作品は、具象的な表現を残しつつ、色彩が絶妙な調和を見せる画境を示し、75年の創画会春季展賞以降没年まで連続4回同賞を受賞し、画壇の新星として注目されました。

当館初代館長梅野隆と莊司貴和子の出会いは、昭和55（1980）年に莊司没後二周年を記念して行われた遺作展でした。それ以降、常々「心の恋人」と称し、その収蔵を熱望した莊司作品のほとんどは、梅野隆没2年後の平成21（2013）年に当館で開催された『刻の審判の場へ―「祈り」莊司貴和子展』を機にご夫君の莊司準氏から梅野記念絵画館に寄贈いただきました。本展では、当館所蔵の莊司貴和子の全作品を令和3年度冬の展覧会と本展の2回にわたり展覧します。梅野隆の心を打った作品に秘められた叙情性をこの機会にぜひ、堪能ください。



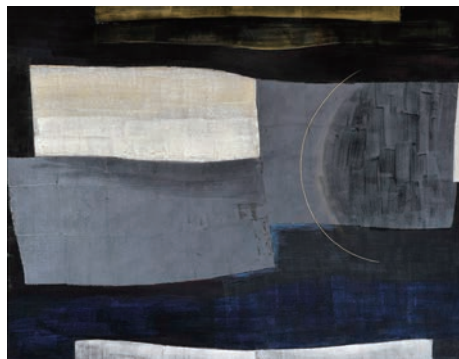
作品76-II海



水仙



白いかたち



社にてII



莊司貴和子（しょうじきわこ）

- 昭和14(1939)年 神戸市須磨区にて、中村穰夫、美千子の次女として出生。
- 昭和18(1943)年 父の転勤に伴い、一家で長崎市に移住。
- 昭和20(1945)年 島原半島に疎開。(原爆には遭わず、遠望したのみ。)
- 昭和20(1945)年 長崎市に戻り、シーボルトの旧居に近い鳴滝町に居住。
- 昭和31(1956)年 この頃、石橋美術館の展覧会を見て絵の道を決意したという。父の転勤で東京に移住。東京都立駒場高等学校芸術科(現在の都立駒場芸術高校)に転入学。
- 昭和33(1958)年 同校卒業。日本美術院の須田洪中先生の指導(受験指導)を受けた。
- 昭和34(1959)年 東京芸術大学日本画科入学。
- 昭和38(1963)年 同校卒業。この頃より母校駒場高校ならびに私立駒込学園高校で非常勤講師として絵画を教える。
- 昭和39(1964)年 新制作協会展及び新制作協会日本画部春季展出品。以降、1974年まで出品。1971年は新制作協会展には出品せず。
- 昭和46(1971)年 莊司準と結婚。
- 昭和48(1973)年 新制作春季展で《作品'73-2》が春季展賞を受賞。
- 昭和49(1974)年 新制作春季展で《作品'74-2地蔵堂にて》が春季展賞を受賞。第1回創画会展に出品。以降、1978年まで出品。
- 昭和50(1975)年 第1回春季創画展で《作品'75-2》が春季展賞を受賞。以降、1978年まで連続受賞。
- 昭和53(1978)年 初夏、病の症状あらわれる。
- 昭和54(1979)年 6月5日死去、享年39歳。

同時開催

市民ギャラリー
みまき絵画会展 3/11(土)〜3/26(日)

ナイトミュージアム

3/7(火)17:00以降 無料

■ 鉄道等の場合

しなの鉄道・田中駅からタクシーで15分。

■ お車の場合

上信越道・東部湯の丸ICから約20分。

Google Map▶



東御市梅野記念絵画館・ふれあい館
〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 芸術むら公園
TEL:0268-61-6161 FAX:0268-61-6162
www.umenokinen.com